



令和3年 9月 1日
佛教大学附属幼稚園

「仏教保育9月のねらい」
報恩感謝

「ありがとう」と「あたり前」

園長 佐藤和順

長い夏休みが終わるといよいよ2学期です。勢いよく新たなるスタートをきりたいところですが、1学期も例年の通りとはいきませんでした。子どもの安全・健康を第一にいろいろなことに注意をしながら、焦ることなく保育を行いたいと思っています。

今月の保育の目標は「報恩感謝(ほうおんかんしゃ)社会や自然の恵に感謝しよう」です。社会の仕組みは、自分ひとりでは何もできません。同時に衣食住のすべてに自然の恵みがなかったら一日も生活することができません。謙虚に社会や自然に感謝する心を育てましょうということです。

先日ある本を読んでいると、あなたは「ありがとう」の反対語を知ってますか?と書かれていました。続きを読むと、答えは「あたり前」でした。「ありがとう」は漢字で書くと「有難う」であり「有難(ありがた)し」という意味。あることがむずかしい、稀である。よって、反対は「当然」とか「あたり前」。私たちは毎日起こる出来事を、あたり前だと思って過ごしています。毎朝目覚めるのが、あたり前。毎朝、太陽が昇るのが、あたり前。息がができるのが、あたり前。食事ができるのが、あたり前。友達といつも会えるのが、あたり前。私たちが「あたり前」と考えがちな「有難い」ことに気づき、感謝の気持ちを忘れず生活をしていきたいと思いますというお話でした。

コロナ禍はある意味私たちに日常のあたり前が有難いことに気づかせてくれたのかもしれませんが。幼稚園に通うのがあたり前、行事があるのがあたり前、子どもに会える・先生に会えるのがあたり前。コロナ禍以前には、あたり前であったことが実は有難いことであったのだと気づかせてくれたという一面もあるのかもしれませんが。

そしてあたり前に行ってきたことにも変化が必要であることにも気づかせてくれました。例年通りに行ってきた保育や行事の中から何ができるのか、何が本当に必要なのか、何を目指して行うのか等についても再度、検討する機会となりました。そして、子どもの育ちを視点として、取捨選択等して、子どもの主体性を大切に、育ちに一層より添える保育のあり方を昨年度から考えてきました。この歩みはコロナ禍が収束しても幼稚園の財産になると考えています。

不易流行。子どもの育ちを最優先に、保育や園の運営を再考する時期が来ているのかもしれませんが。

